



醍醐寺 真言宗醍醐派総本山

山上から山麓へと広がる、1,150年を超える祈りの歴史



醍醐寺 五重塔

基本情報

開創	貞観16年（874）	開山	聖宝（諡号・理源大師）
所在地	京都市伏見区	寺域	上醍醐・下醍醐を含む約600ヘクタール
本尊	薬師如来	主な特色	1994年、「古都京都の文化財」の構成資産として世界遺産に登録

概要・歴史

醍醐寺は、京都市伏見区の醍醐山一帯に広がる寺院です。貞観16年（874）、聖宝理源大師が山上で霊水「醍醐水」を得て、草庵を結んだことに始まります。

その後、朝廷の保護を受け、山頂近くの上醍醐から山麓の下醍醐へと伽藍が整えられました。

真言密教の一大拠点であると同時に、修験道とも深い関わりを持ち、現在も祈祷、護摩、写経、山岳修行などが受け継がれています。広大な境内には、国宝・重要文化財に指定された建造物をはじめ、仏像、絵画、古文書、工芸品など、優れた文化財が数多く伝わります。

見どころ

祈りの伝統、歴史的建築、文化財、そして醍醐山の自然が、千年以上にわたる信仰と庇護の歴史を今に伝えています。

01

五重塔と伽藍

天暦5年（951）に完成した醍醐寺の五重塔は国宝であり、京都府内に現存する最古の木造建築です。高さ約38メートルの塔は金堂のそばに立ち、歴史ある下醍醐伽藍の中心的な景観を形づくっています。

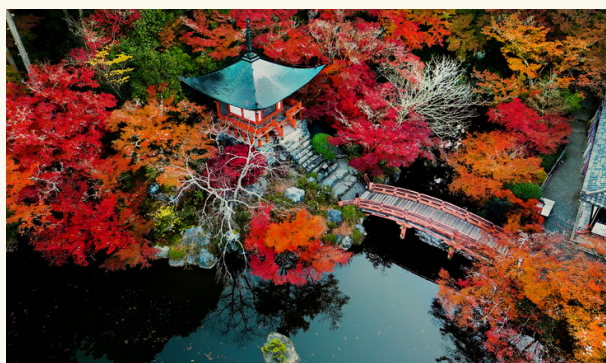


下醍醐 五重塔

02

三宝院と庭園

永久3年（1115）に創建された三宝院は、歴代座主が居住した醍醐寺の本坊です。国宝の表書院と唐門には、桃山文化の華やかさが表れています。特別史跡・特別名勝に指定された三宝院庭園は、慶長3年（1598）に催された「醍醐の花見」に際し、豊臣秀吉の指揮のもとで築かれました。



下醍醐 弁天堂と弁天池

03

桜と四季の景観

豊臣秀吉の盛大な花見に向けて700本もの桜が植えられたと伝わり、醍醐寺は現在も京都を代表する桜の名所の一つとして知られています。弁天堂周辺をはじめ、広大な境内は春の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色によって、季節ごとに異なる表情を見せます。

04

上醍醐

上醍醐は、醍醐寺が開かれた山上の聖域です。醍醐水、薬師堂、五大堂、開山堂などが、木々に覆われた山中に点在しています。下醍醐から山を登る道のりそのものが、現在まで続く山岳信仰と厳しい修行の伝統を感じさせます。

05

霊宝館と文化財

醍醐寺には、約15万点に及ぶ文化財が伝わっています。霊宝館では、その中から仏像、絵画、工芸品、古文書などを選んで展示し、これらの文化財を通して、真言密教、日本の宗教史、仏教美術の発展を知ることができます。